

保母志望者に関する高校教諭の意識

○ 上原 明子 倉戸 直実 山本 真由美
 (大阪成蹊女子短期大学) (浪速短期大学) (関西保育福祉専門学校)

はじめに

保育者養成学科に学ぶ学生を対象とした入学当初の意識調査によれば、志望決定の時期は、「小さい時から」と「高校時代」がそれぞれ約40%、その他約20%であった¹⁾。回答がいずれの場合であっても、漠然とした憧れの段階から、自分および周囲の諸要因に照らして、現実の進路として選び直すのは高校時代においてである。もちろん他のすべての進路に関しても同様ではあるが、とりわけ保育者養成系については、早期からの志望者が多い点、進学が職業と深く関わっており、進学適性と同時に職業適性が問われている点などの特質から、高校在学中の意志決定過程が重要であると考えられる。

さて、こうした高校生意志決定過程を見守り、直接間接に関与している高校の進路指導担当者たちは保育志望者をどのように捉えているのであろうか。アンケート調査に基づいて検討する。

方法

対象：近畿地区の高等学校804校。調査依頼文・アンケートと返信用封筒を郵送した。宛名は学校長と進路指導部長併記。返信277校(回答率34.5%)。調査協力校の詳細は表1に示す。

実施時期：1993年11月10日発送。返送期日12月10日

アンケート構成：B4用紙1枚。「高校における保母養成校入学希望者に関するアンケート」とした。

設問は2群から成り、(1)保母養成校への進学者、進路変更者の実数、(2)進学適性、保母適性、保母イメージについての回答を求めている。記入者の負担を考慮して、回答は数値記入もしくは項目選択形式(複数回答可)とした。項目の作成にあたっては高校教諭

による入試出願時の推薦文分析結果を基にした²⁾。なおアンケート末尾に自由な意見記入欄を設けた。
 集計：管理工学研究所「桐Ver.3」を用いた。

結果と考察

(1)保母養成校(保育、幼児教育系)への進学者及び進路変更者に関して、1993年3月卒業生についての実数記入を求めた。表2に掲げる。保育系への進学者は、277校合計で、卒業生男子47,812名中220名(0.5%)女子50,893名中2,912名(5.7%)であった。ただしこの人数については、「学年全体を十分把握できていないが」「正確な数は分からない」等の断わりが付されていたり、無記入校も多く、回答者が把握した数の合計である。我々の関心は潜在的に保育系を志望していた生徒がどれほど存在し、どのような理由やプロセスにより、実際に進学したり志望変更したりするののかという点にある。保育系を志望していた生徒数の記入があったのは、169校1345名、「希望していた人数はわからない」が88校であった。また、「保育系を希望していたが進路を変更した生徒」については「いる」が82校、「いない」が81校、「わからない」96校であった。進路変更の理由として最も多かったのは「希望校へ進学できない」64件であった。「将来の就職」「適性」「経済的事情」等本人側の事情による進路変更は併せて29件挙げられた。

(2)進学適性・保母適性・保母イメージについての結果を表3に示す。「保母志望者にとって高校時代に重要と思われる教科」の項では、音楽233件、国語195件、体育186件、ついで美術150件、家庭104件であった。高等学校程度の基礎学力は全教科必要と記述が加えられる例も数件見られた。また「保母志望者にとって高校時代に必要と思われる技能」としては「ピアノ、エレクトーン」187件、「運動」148件、「話し方」144件であった。次の2項では保母適性を問うている。「保母に適すると考えられる性格特性」として「明るい」188件、「やさしい」173件、「朗らか」149件が上位に挙げられた。つぎに「保母になるために必要な要因」では「子ども好き」211件、「健康」170件、「体力」124件であった。さらに「進路指導時に保母

表1 アンケート送付高校数と回収率

高校数	私立	公立	滋賀	京都	奈良	大	兵	和		
送付 804 [※]	158	646	57	105	66	288	230	58		
回収 277 [※]	81	195	22	35	22	92	82	22		
回収率34.5%	51.3	30.2	39	33	33	32	36	38		
学校種別			専攻別							
共学	男子	女子	全日	夜	普通	商	農	工	家	情
210	23	38	256	6	224	28	7	18	9	2

を志望する生徒に対して重視する要素」3項目の選択の結果は「生徒自身の志望」が236件と群を抜いて高く、「性格」が179件、「保母として必要な要因」が122件見られた。進路指導は当然進学指導でもあって入学試験が考慮されていることであろうが、ここでは「体力」84件が「学力」58件を上回っている。最後に「保母という仕事のイメージ」について尋ねた。「朝早くから遅くまでの大変な仕事」170件が最も多く、「専門的な技術が必要」130件、「子どもを育てるプロ」がそれに続いた。「女性が仕事をするために必要」46件や、「女性に適した仕事」65件で、「やさしい女性になる仕事」26件、という回答もある。

(3) 多人数の卒業生が多様な方向の進路に分かれ、また進学に当たっては一人の生徒が複数校を受験するといった複雑な事態の全容を、進路指導担当者が熟知することは至難であろう。選択肢の一つである保育系について、志望していた者、進学した者、進路変更した者といった細部の実数が、高校側の集計の枠組みに入っていないのはむしろ当然である。そのような事情の中で、可能な限り正確に記入しようとする誠意ある回答が多かった。また約3分の1の回答者に自由記述欄への記入がみられた。保育・幼児教育の重要性について、保母の待遇の向上について、男子の保育職への進路を拡充する必要性についてなど、が熱心に述べられている。また養成校からの情報を要請する声もあった。

アンケートの結果から、進路指導担当者の保母・保育者像は次のように要約されよう。

—保母は「大変な仕事」であるが「専門的な技術が必要」な「子どもを育てるプロ」である。保育系への進路の決定にさいしては何よりも「生徒自身の志望」を重視し、「性格」「子ども好きであること」「健康・体力」が必要な要因と考える。また「ピアノ・エレクトーン」「運動」「図画工作」などの技能を有してい

ること、教科では「音楽」「体育」を重視するが、受験には「国語」が大切である。—

このような、進路指導担当者の保母像、保育者適性像が、どのような形で、どのような程度に、個々の保育志望者の意志決定に影響を及ぼしているのであろうか。今後の検討課題としたい。

表3 進学適性・保母適性・保母イメージ

保母志望者にとって高校時代重要だと思われる教科							
国	数	理系	社系	英	体育	音楽	書道 美 家
195	14	25	52	24	186	233	29 150 104
保母志望者にとって高校時代に必要と思われる技能							
ピアノ・エレクトーン		図工	運動	絵本	話し方	身体表現	
187		127	148	73	144	123	
保母に適すると考えられる性格特性							
明るい	朗らか	やさしい	温厚	活発	真面目	努力家	愛想がよい
188	149	173	85	117	80	91	23
保母になるための必要な要因							
子ども好き		健康	体力				
211		170	124				
進路指導時に重視する要素							
学力	体力	技能	性格	生徒の志望	保護者の要望	保母の必要な要因	
58	84	22	179	236	12	122	
保母という仕事のイメージ							
朝早くから遅くまでの大変な仕事							170
専門的な技術が必要							130
子どもを育てるプロ							98
女性に適した仕事							65
女性が仕事をするために必要							46
給料が低い							42
腰が痛くなる							35
社会的評価がある							32
やさしい女性になる仕事							26
夜勤がある職場もある							25
子守り							5
簡単な仕事							1
記入者							
校長	教頭	学年主任	進路指導部長	進路指導担当	学級担任		
2	3	5	163	90	4		

表2 保母・幼児教育系学校への進学者数

在学数				保母・幼児教育者希望者数			
男子	校数	女子	校数	希望者	校数	わからない	
47812	236	50893	255	1345	169	88	
保母養成校への進学者数				進路変更者			
4年制大学	男	女	いる		いない		わからない
			82	211	81	96	
短期大学	9	2354	理由				
専門学校	64	347	適性	就職	経済的	進学できない	
			6	19	4	64	

参考文献

- 1) 山本真由美・上原明子・倉戸直実 1993.5 進路指導において高校教師が考える保育者適性像 日本保育学会 第46回大会 p672-673
- 2) 山本真由美・上原明子・倉戸直実 1993.10 保育者を志した学生の自己像 全国保母養成協議会研究会 第32回大会 p48-49